国際環境NGOグリーンピース・ジャパン
記者発表資料

2024年5月30日

# 『リユースの仕組みに関する意識調査』

## 1. 概要

グリーンピース・ジャパンは、繰り返し使えるリユース容器の貸し出し・回収・洗浄を第三者企業が一貫して行うリユースシステムに関する認知度と、すでにサービスを利用した人たちの実態を探るために、マイタンブラー・ボトルを所有する全国1000人を対象に意識調査を行った。カフェやコンビニなど、リユースの仕組み導入を検討している企業はあるが、マイタンブラーの利用を推奨する施策などと重複するという懸念や、コストをかけてリユースの仕組みを導入するより、マイタンブラー施策の拡充を優先すべきとの声もたびたび聞かれる。これを受け、マイタンブラー・ボトルの利用状況やリユースの仕組みに関する生活者の声を聞き、現状と課題について理解を深めるために全17問のアンケートを実施した。調査は、グリーンピース・ジャパンが、楽天インサイト株式会社に委託し、オンラインで行った。
調査の結果、マイボトル・タンブラーが主に水・茶を入れる用途で使用され、カフェ・コンビニでのテイクアウトに使用される割合が低いことや、持ち歩きが浸透しない理由など、マイボトルのデメリットや限界が浮き彫りになった。一方で、企業が容器の貸し出し・回収・洗浄まで行うリユースの仕組みが広がれば、マイボトルが利用されないデメリットを解消できる可能性も読み取れた。
グリーンピースは調査結果を踏まえ、多量の使い捨てカップを排出する企業（カフェ・コンビニなど）に対して、リユース目標の設定や推奨施策などの提言を行う。

## 2. 調査結果のサマリー

### 2-1. マイボトル・タンブラーに関する質問

**約6割がマイボトル・タンブラーを2本以上所有するが、活用状況には課題あり**

- 全体の半数以上（56.4%）がマイボトル・タンブラーを「2本以上持っている」と回答している一方、3人に1人（33.2%）はほぼ持ち歩いておらず[1]、「週1日以上」マイボトルを持ち歩いている66.8%の回答者の中でも、持ち歩く本数は「1本」と答えた割合が85.6%を占めた。（4頁Q1、2、5頁3）
- マイボトル・タンブラーを「週1日以上持ち歩いている」回答者の中で、コンビニ・カフェのテイクアウト利用者は約半数の54.9%だった。そのうち、ほぼ毎回マイボトル・タンブラーを利用するのは15.3%に限られ、26.3%が「ほとんど、もしくは全く」利用していない実態が明らかになった。（6頁Q6）
- マイボトル・タンブラーを利用している理由には、節約志向（46.6%・31.9%）、環境意識（15.1%・18.7%）、「ごみになるのが面倒」（28.6%）、「温かい・冷たいまま飲める」（35.3%）などが挙がった。（6頁Q5、7頁7）
- カフェ・コンビニでテイクアウトの際に、マイボトル・タンブラーを利用しない理由としては、「すでに別の用途（水など）で1本持ち歩いているので、これ以上増やしたくない」が43.3%と最も多く、次いで「かさばる」が25.5%、「自分で洗うのが面倒」が17.3%だった。（7頁Q7）

### 2-2. リユースの仕組みに関する質問

**リユースの仕組み利用者の満足度は高く、サービス拡大による利用者増も見込まれる**

- 「返却式リユースカップの仕組み」についての認知度は35.2%であるが、実際に仕組みを活用したことのある回答者では、9割以上が「また使いたい」と回答している。（8頁Q9、9頁11、10頁13）
- マイボトル・タンブラーを所有している人の62%が「お店がリユースシステムを導入していると、その企業の環境に対する取り組みについてイメージ向上につながったり、お店での購買行動にポジティブな影響を与える」ことに賛同した（「とてもそう思う」「ややそう思う」）。（12頁Q17）
- コンビニ・カフェのテイクアウトの際に、マイボトル・タンブラーの利用頻度が「2-3回に1回」よりも低頻度、もしくは全く使っていない層に、リユースの仕組みが広がれば利用したいか聞いたところ、63.7%が「（頻繁に・時々）利用したい」と回答した。こちらも20代、30代の割合が最も多かった。（11頁Q16）

返却式リユースカップの仕組みの認知度については課題が見られたが、利用経験がある人のうち、大多数が「また利用したい」と答えた。リユースの仕組み導入はまだ発展途上であるが、利用経験者から前向きな回答が多く得られたことは、社会的拡大に向けて非常にポジティブな反応と言える。
マイボトル・タンブラーを利用しない理由として、「すでに他の用途（水など）で1本持ち歩いているので、これ以上増やしたくない」「かさばる」「重い」「自分で洗うのが面倒」などが挙られているが、リユースの仕組みでは家から容器を持ち歩く必要がなく、必要な時だけお店から借りることができ、自分で洗わなくてよいため、マイボトル・タンブラーが持つデメリットの解消が期待できる。また、容器のデザインによっては、保冷・保温機能なども兼ね備え、使い捨てカップにはない価値も提供することができる。最後に、「リユースの仕組みを使ったことがある」と答えた回答者は、利用した理由として「環境に良いから」を一番多く挙げ、特に20代・30代においてこの傾向が強く見られた。

[1] 自宅利用目的も含まれる



国際環境NGO グリーンピース・ジャパン
〒105-0004 東京都港区新橋 3-3-13 Tsao Hibiya 12F　www.greenpeace.org/japan

## 3. 意識調査の実施概要

### 3-1. 調査方法

対象：マイボトル・マイタンブラーを所有する国内在住の1000人（20歳から10代刻み及び60歳以上の男女）
地域：すべての都道府県
方法：グリーンピース・ジャパンが楽天インサイト株式会社に委託してオンラインで実施
時期：2024年5月21日（火）～5月22日（水）

### 3-2. 調査背景

法的拘束力のある国際プラスチック条約策定に向けて議論が進む政府間交渉委員会（INC）は、2024年11月末に韓国の釜山で開催されるINC-5を最後の交渉とし、来年締結することを目指している。議論されている争点の一つは、プラスチック生産そのものを制限するかについてだが、同時に使い捨てプラスチックに依存した私たちの社会経済システムをどう転換していくかという議論も非常に重要なポイントになる。プラスチックごみを大きく減らすためには、他の資源を使い捨て続けてしまう代替素材への転換やリサイクル頼りではなく、「使い捨てそのものを減らす」社会に移行することがまず優先されるべきだからだ。

使い捨てを減らすために有効な対策は、減らす（リデュース）に加えて繰り返し使う（リユース）の推進だ。リユースと言えば、一般的には消費者によるマイボトルやマイバックの持ち歩きなど「個人の努力」と見られてきた。こうした消費者行動が引き続き大切であることには変わりないが、世界の環境汚染の悪化具合を考慮すると、「個人の努力」を超えた対策が必要であることに疑いの余地はない。

近年では環境汚染対策を念頭に置いた事業として、リユース容器を貸し出し、利用者からの容器返却後は、回収・洗浄まで一貫したサービスを提供する新しいタイプのビジネスが生まれている。これは「リユースビジネス」の一例であるが、その他にも多様なモデルが存在する。[2]

こうしたモデルが広がると、カフェやコンビニのコーヒーをテイクアウトする際には、リユースカップをお店からレンタルすることが可能になり、これまでのような使い捨ての紙コップやプラスチックカップの利用が大きく減ることが期待できる。飲み終わった後は、自分で洗わなくてもお店や街中の回収ボックスに返却することができれば、利用者にとっても利便性が高い。衛生面における懸念も聞かれるが、回収された容器は洗浄専門の業者が高い衛生基準のもと洗浄することで、個人で洗うよりも安定的で環境影響も管理されたシステムを運営することが可能になる。一見新しいように感じるが、企業側が容器や機器を洗浄してリユースすること自体は、例えばレストランの食器類、また、歯科医院などの医療機関で使用される機器のように、日常的に行われてきた行為である。

これまでこの分野で提唱されてきたサーキュラーエコノミーの多くは、プラスチックのリサイクルを中心に考えられてきた。しかし、これでは資源の喪失とプラスチック汚染は止まらず、問題解決には至らない。使い捨てからリユースのシステムに移行していくことで、環境汚染を大幅に低減し、資源を大量に使い捨てないサーキュラーモデルを閉じた輪（Closed Loop）で実現することが急務だ。そのためには、使い捨て容器包装を多く排出する企業による、リユースの仕組みの大規模導入が必須になる。

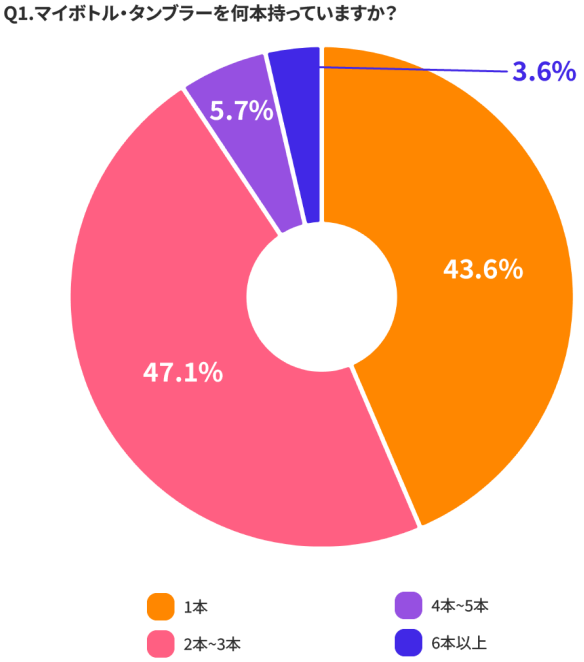
[2] Ellen MacArthur Foundation, *Reuse – rethinking packaging* (2019).



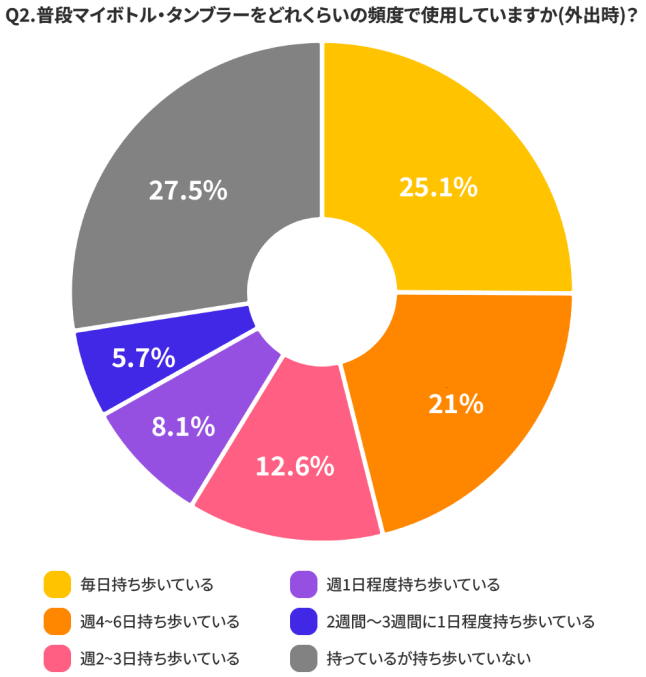
国際環境NGO グリーンピース・ジャパン
〒105-0004 東京都港区新橋 3-3-13 Tsao Hibiya 12F　www.greenpeace.org/japan

### 3-3. 調査の全結果

Q1. マイボトル・タンブラーを所有している人に回答者を限定するため、最初にスクリーニング（選別）質問として、マイボトル・タンブラーを何本持っているか聞き、0本の回答を除外した。マイボトル・タンブラーの所有者が持っている本数は、1-3本が90.7%で、4本以上と答えた人も約1割（9.3%）にのぼった。



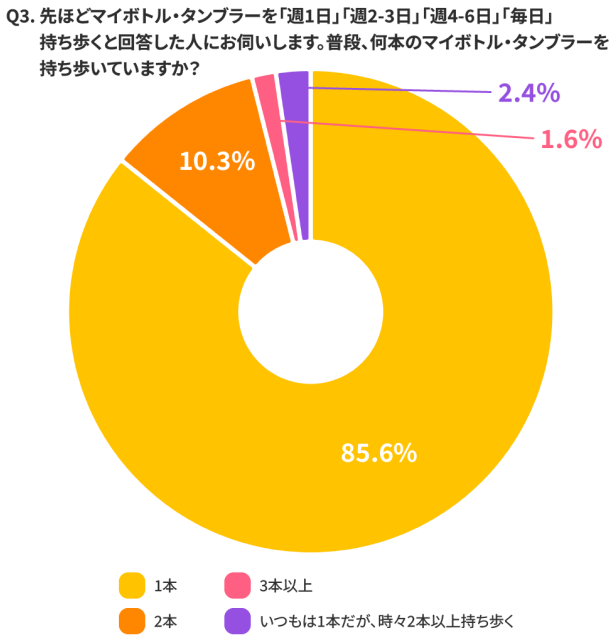

Q2. 外出時にマイボトル・タンブラーを使用している頻度を聞いたところ、「持っているが持ち歩いていない」が最多の27.5%で、次いで「毎日」25.1%、週4-6回が21%、週2-3回が12.6%だった。



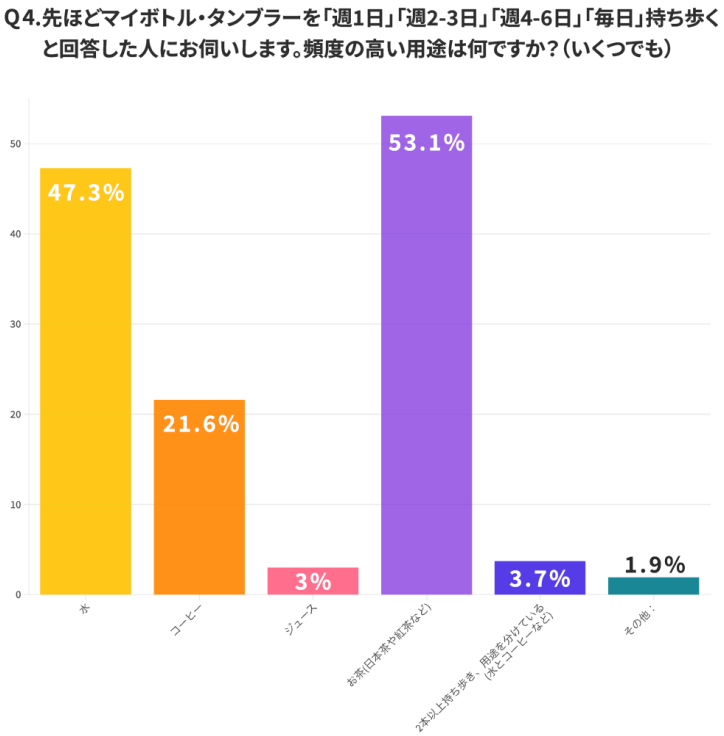



国際環境NGO グリーンピース・ジャパン
〒105-0004 東京都港区新橋 3-3-13 Tsao Hibiya 12F　www.greenpeace.org/japan

Q3.マイボトル・タンブラーを「週1日」「週2-3日」「週4-6日」「毎日」持ち歩く人に対して、何本持ち歩くか聞いたところ、1本と答えた人が85.6%と大半を占めた。



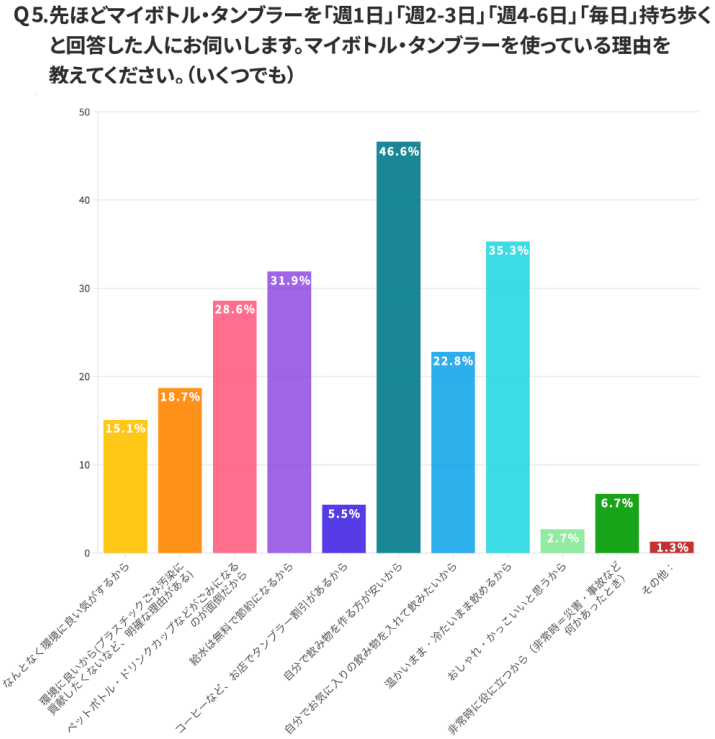

Q4.マイボトル・タンブラーを「週1日」「週2-3日」「週4-6日」「毎日」持ち歩く人に対して、頻度の高い用途を聞いたところ、茶（53.1%）と水（47.3%）の頻度が高く、多くの人が水や茶による水分補給にマイボトル・タンブラーを使用していることがわかった。



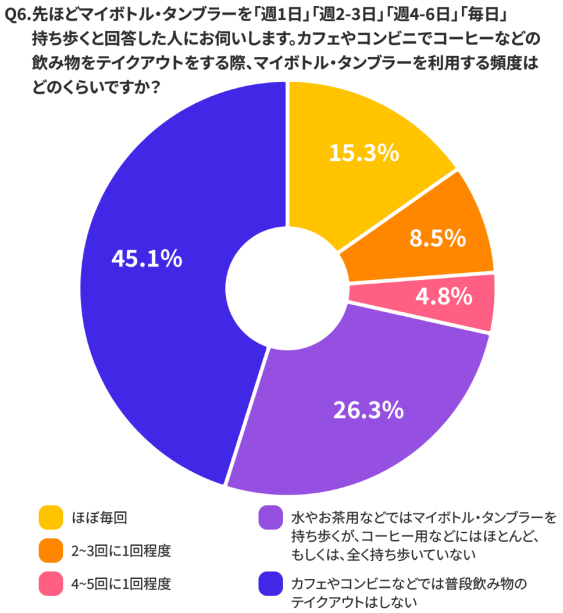



国際環境NGO グリーンピース・ジャパン
〒105-0004 東京都港区新橋 3-3-13 Tsao Hibiya 12F　www.greenpeace.org/japan

Q5. マイボトル・タンブラーを「週1日」「週2-3日」「週4-6日」「毎日」持ち歩く人に対して、使用している理由を聞いたところ、「自分で飲み物を作る方が安いから」が46.6%で最も多く、「温かいまま・冷たいまま飲めるから（35.3%）」、「給水は無料で節約になるから」（31.9%）、「ペットボトル・ドリンクカップなどがごみになるのが面倒だから」（28.6%）が続いた。



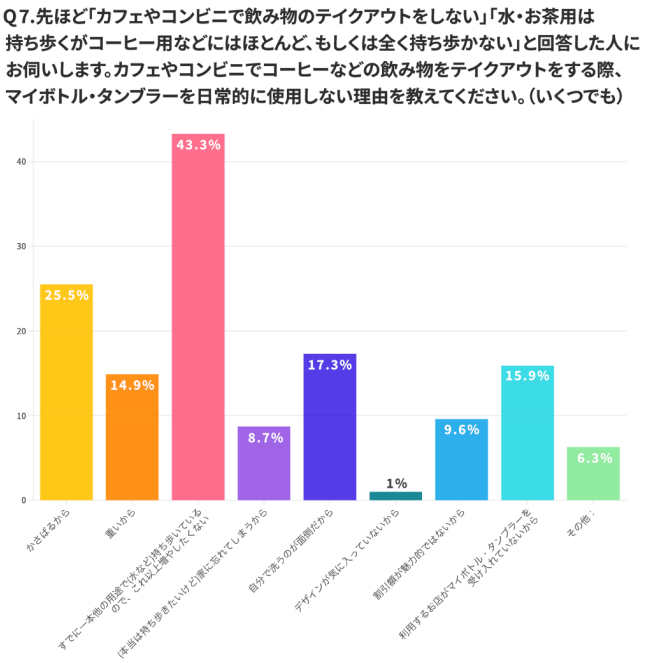

Q6. マイボトル・タンブラーを「週1日」「週2-3日」「週4-6日」「毎日」持ち歩く人に対して、カフェやコンビニでコーヒーなどの飲み物をテイクアウトをする際にマイボトル・タンブラーを利用する頻度を聞いたところ、「カフェやコンビニで飲み物のテイクアウトをしない」が45.1%と最も多く、「水・お茶用は持ち歩くがコーヒー用などにはほとんど持ち歩かない」（26.3%）、「ほぼ毎日」（15.3%）が続いた。



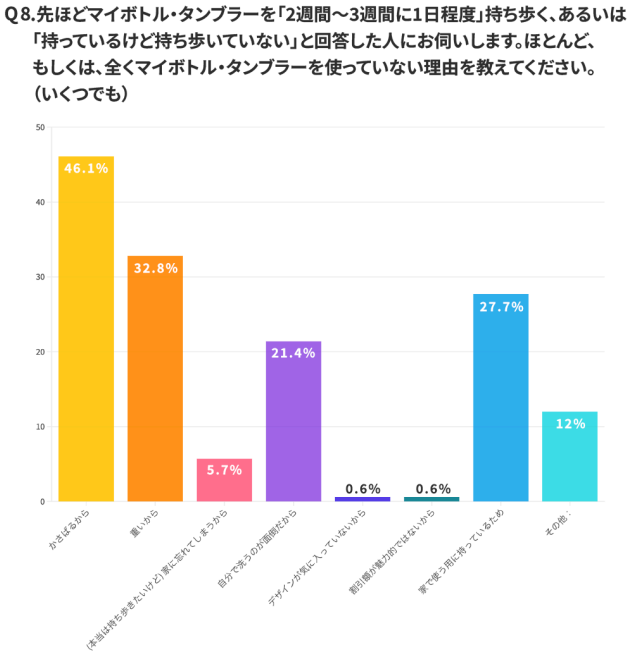



国際環境NGO グリーンピース・ジャパン
〒105-0004 東京都港区新橋 3-3-13 Tsao Hibiya 12F　www.greenpeace.org/japan

Q7. Q6で「カフェやコンビニで飲み物のテイクアウトをしない」「水・お茶用は持ち歩くがコーヒー用などにはほとんど、もしくは全く持ち歩かない」と答えた人に対して、飲み物のテイクアウトにマイボトル・タンブラーを日常的に使用しない理由を聞いたところ、「すでに1本他の用途で（水など）で持ち歩いているのでこれ以上増やしたくない」が最多の43.3%、次いで「かさばるから」（25.5%）、「自分で洗うのが面倒だから」（17.3%）だった。




Q8. Q3でマイボトル・タンブラーの使用頻度について「2週間〜3週間に1日程度」「持っているけど持ち歩いていない」と答えた人に対して、使用しない理由を聞いたところ、「かさばるから」が46.1%と最も多く、次いで「重いから」（32.8%）、「家で使う用に持っているから」（27.7%）、「自分で洗うのが面倒だから」（21.4%）となった。

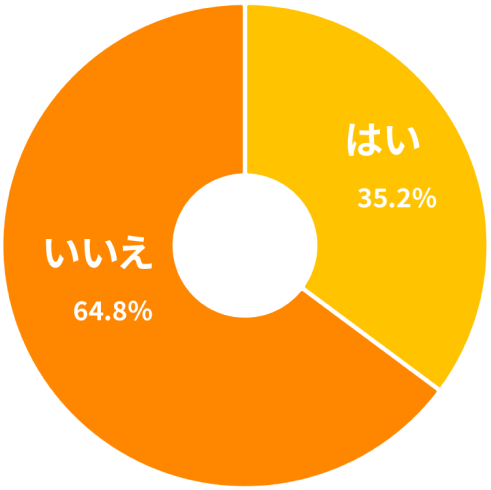





国際環境NGO グリーンピース・ジャパン
〒105-0004 東京都港区新橋 3-3-13 Tsao Hibiya 12F　www.greenpeace.org/japan

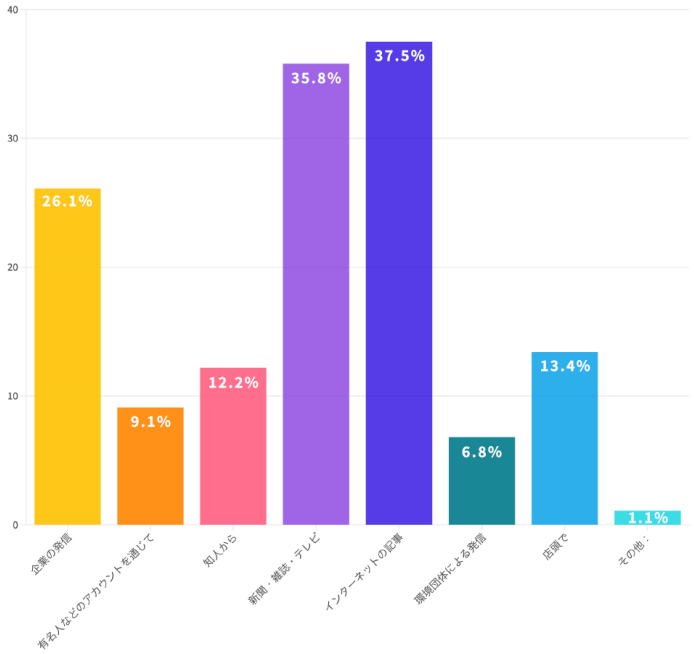
Q9. 企業が容器を貸し出し・回収・洗浄まで行うリユースの仕組みについて知っているか聞いたところ、知っていると答えた人は35.2%だった。

Q9.使い捨てプラスチックを減らすための有効策として、企業が容器を貸し出し・回収・洗浄まで行う、リユースの仕組み導入が少しずつ広がってきています。このようなリユースの仕組みを知っていましたか？




Q10. リユースの仕組みを知っている人に対して、知ったきっかけを聞いたところ、「インターネット記事」（37.5%）、「新聞・テレビ・雑誌」（35.8%）と報道で知る人が多く、「企業からの発信」（26.1%）が続いた。

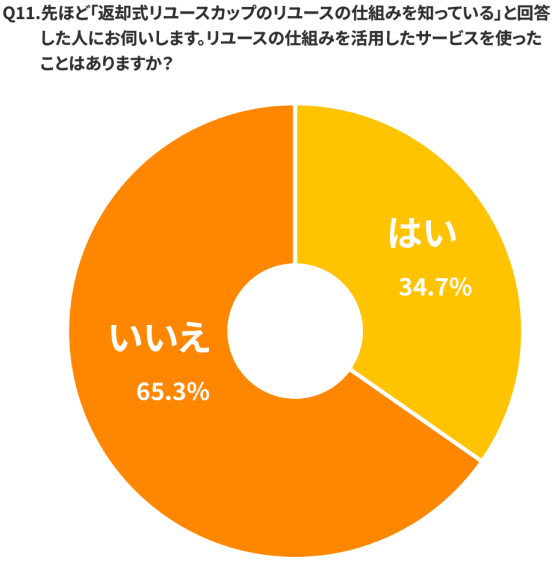
Q10.先ほど「返却式リユースカップのリユースの仕組みを知っている」と回答した人にお伺いします。リユースの仕組みについて知ったきっかけは何ですか？（いくつでも）



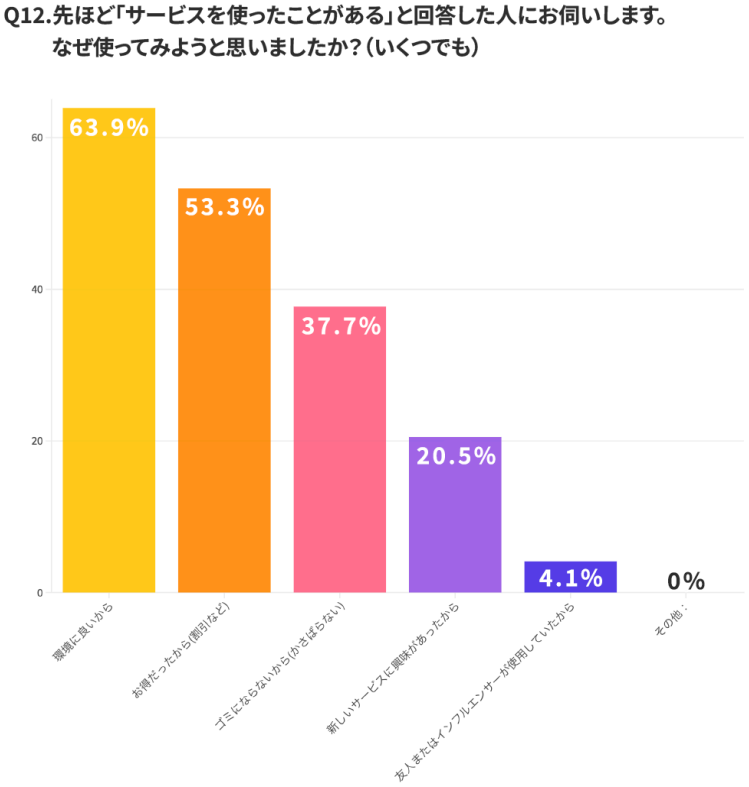



国際環境NGO グリーンピース・ジャパン
〒105-0004 東京都港区新橋 3-3-13 Tsao Hibiya 12F　www.greenpeace.org/japan

Q11. リユースの仕組みを知っている人に対して、リユースの仕組みを活用したサービスを使用したことがあるか聞いたところ、「使用したことがある」と答えた人の割合は34.7%だった。



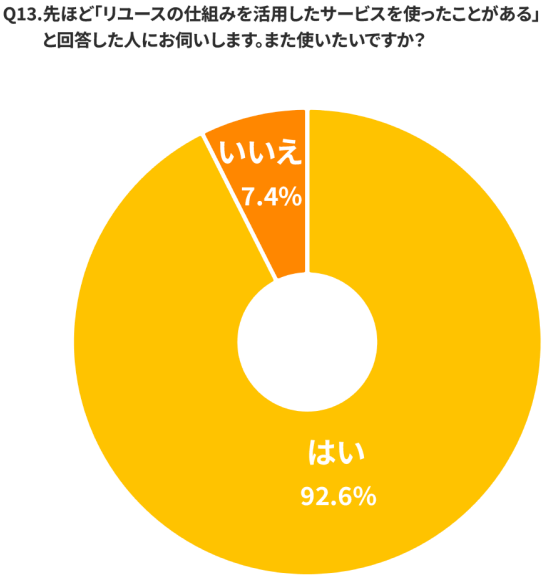

Q12. リユースの仕組みを活用したサービスを使用したことがある人に対して、使用しようと思った理由を聞いたところ、「環境に良いから」が最多の63.9%、「お得だったから」(53.3%）、「ごみにならないから」（37.7%）と続いた。



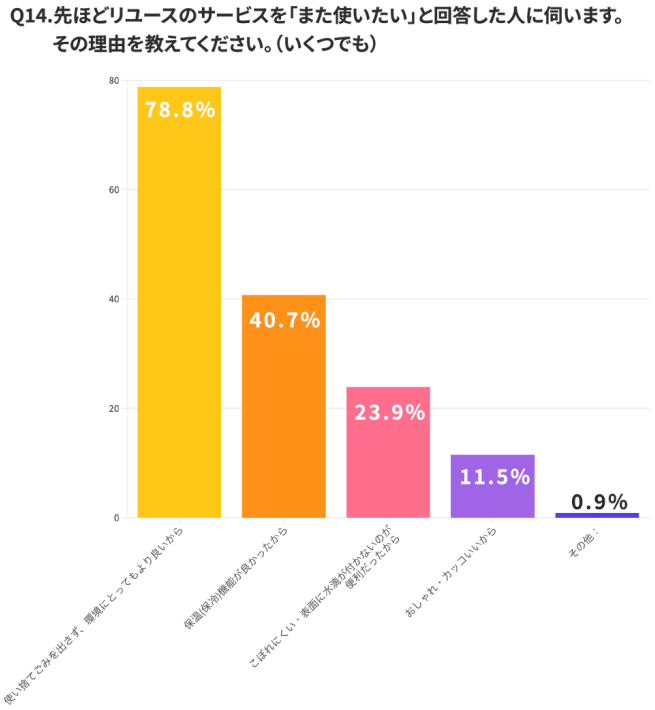



国際環境NGO グリーンピース・ジャパン
〒105-0004 東京都港区新橋 3-3-13 Tsao Hibiya 12F　www.greenpeace.org/japan

Q13. リユースの仕組みを活用したサービスを使用したことがある人に対して、また使用したいか聞いたところ、92.6%が「また使用したい」と答え、高いサービス満足度がうかがえた。



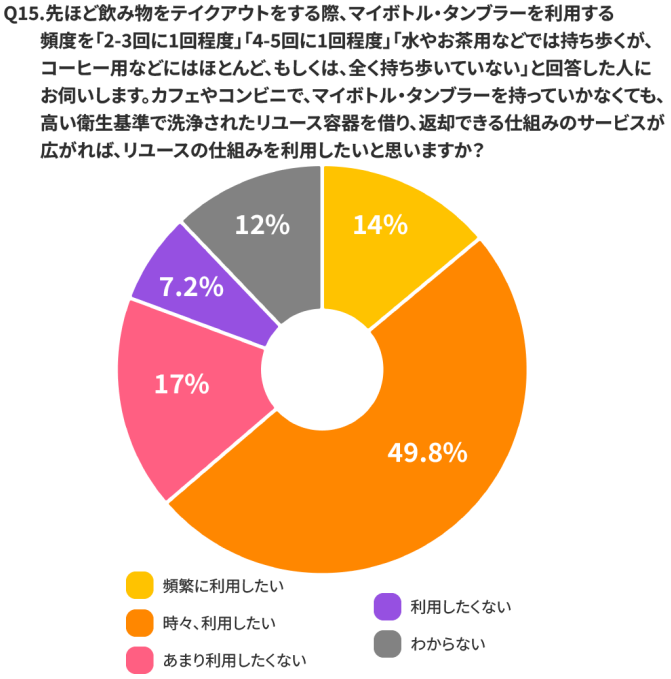

Q14. Q13でリユースの仕組みを活用したサービスを「また使用したい」と答えた人に対して、その理由を聞いたところ、「使い捨てごみを出さず、環境にとってもより良いから」が78.8%と最も多く、環境に配慮したサービスを評価していることが伺えた。次いで「保温（保冷）機能が良かったから」（40.7%）、「こぼれにくい・表面に水滴が付かないのが便利だったから」（23.9%）と続いた。



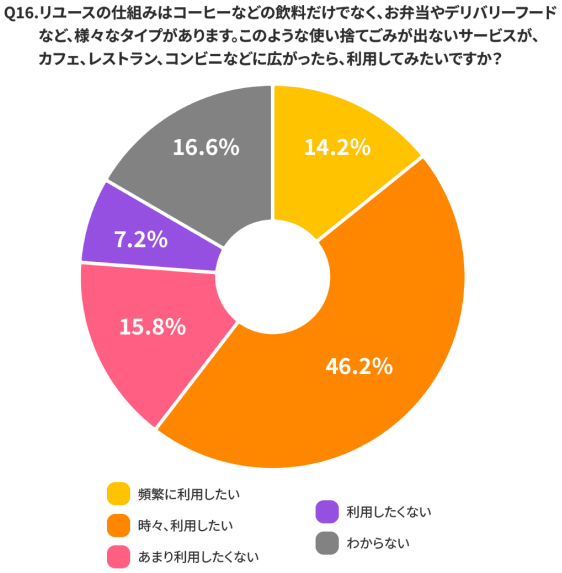



国際環境NGO グリーンピース・ジャパン
〒105-0004 東京都港区新橋 3-3-13 Tsao Hibiya 12F　www.greenpeace.org/japan

Q15. マイボトル・タンブラーを週1日以上の頻度で持ち歩く一方、カフェやコンビニでの飲み物のテイクアウトにおけるマイボトル・タンブラーの利用頻度は「2-3回に1回程度」「4-5回に1回程度」「水やお茶用などでは持ち歩くが、コーヒー用などにはほとんど、もしくは、全く持ち歩いていない」と答えた人に対して、カフェやコンビニで、マイボトル・タンブラーを持っていかなくても、高い衛生基準で洗浄されたリユース容器を借り、返却できる仕組みのサービスが広がれば、リユースの仕組みを利用したいか聞いたところ、「頻繁に利用したい」「時々、利用したい」が63.8%で、「あまり利用したくない」「利用したくない」（24.2%）を上回った。



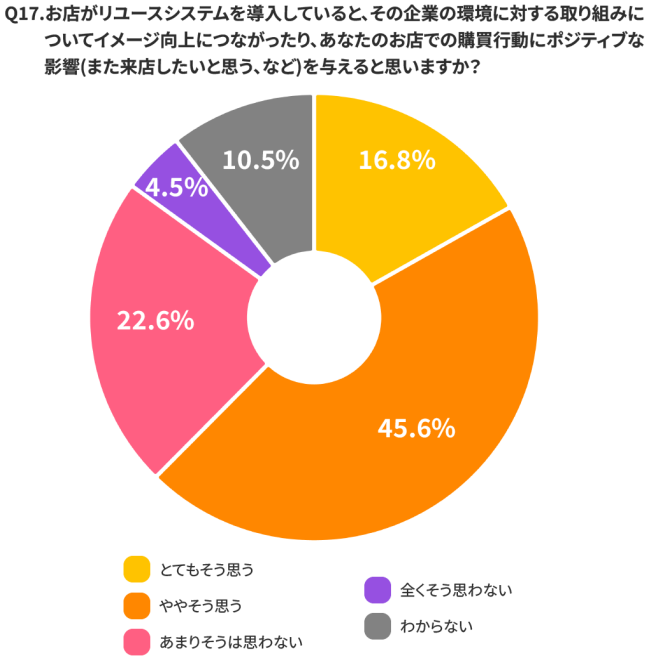

Q.16 コーヒーなどの飲料だけでなく、弁当やデリバリーフードなど、様々なタイプの使い捨てごみが出ないサービスが、カフェ、レストラン、コンビニなどに広がったら、利用してみたいか聞いたところ、「頻繁に利用したい」「時々、利用したい」が60.4%で、「あまり利用したくない」「利用したくない」（23%）を上回った。






国際環境NGO グリーンピース・ジャパン
〒105-0004 東京都港区新橋 3-3-13 Tsao Hibiya 12F　www.greenpeace.org/japan

Q17. 店舗がリユースシステムを導入していた場合、その企業の環境に対する取り組みについてイメージ向上につながったり、自身の購買行動にポジティブな影響（また来店したいと思うなど）を与えると思うか聞いたところ、「とてもそう思う」「ややそう思う」が62.4%で、「あまりそうは思わない」「全くそうは思わない」（27.1%）を上回った。




## 4. グリーンピース・ジャパンからの提言

今回の調査結果から、グリーンピース・ジャパンは多量の使い捨てカップを消費する企業（カフェ・コンビニなど）に対して以下の提言をする。

（1） 目標の設定（数値目標の期限を2025年から5年刻み、もしくはより短い間隔で設定）
- 紙やプラスチック製使い捨てカップの総量削減目標を設定し、公表する
- 全飲料販売（テイクアウト・店内利用）におけるリユース容器で販売する割合を示す「リユース目標」を設定し、公表する

（2） 透明性の向上（消費状況と目標に対する進捗）
- 自社の紙・プラスチックの使い捨てカップ消費状況を把握し公開する
- 使い捨てカップ削減およびリユース推進の状況を定期的に公開する

（3） テイクアウト用返却式リユースカップの仕組みの導入
- 可能な限り規模を広げた実証実験の展開 （使い捨てカップ消費量が特に多く、店舗が集中する都市部などで）
- 主に都市部から優先的に、段階的な大規模導入をする
- 他業界・他チェーンなどとも連携協力して仕組みの拡大を目指す
- 「リユース連合」を企業・NGO・専門家などと立ち上げ、政策提言などを行う



国際環境NGO グリーンピース・ジャパン
〒105-0004 東京都港区新橋 3-3-13 Tsao Hibiya 12F　www.greenpeace.org/japan

（4）マイボトル・タンブラーの持ち込み推奨強化

- 持ち込みを認めていない場合はマイボトル・タンブラーの持ち込みを受け入れる
- すでに持ち込みを認めている場合は使い捨てカップの有料化、割引額の増加や広報強化などによって、マイボトル・タンブラーの持ち込み推奨を強化する

（5）店内マグ・グラスの利用徹底

- 店内における使い捨てカップの消費を最小限にとどめるべく、すでにマグ・グラスの洗浄設備や保管スペースが存在する店舗においては、使い捨てカップの提供については希望者のみとするなど、基本的にマグ・グラス提供を前提とする

グリーンピース・ジャパンは、企業側に対する上記の提言に基づいた活動を進めるとともに、市民への働きかけも行っていくことで、リユースの普及拡大を支援していく。

免責事項
本文書は、公教育および科学研究を支援し、報道を促し、環境保護に対する意識を高めることを目的にグリーンピースが作成したものである。
本文書は、情報の共有、環境保護、公共の利益のみを目的とし、投資その他の判断材料となるものではない。目的外利用があった場合、グリーンピースはかかる利用に伴ういかなる責任も負わないものとする。
本文書の内容は、グリーンピースが調査期間において独自に入手した調査情報にのみ基づくものであり、グリーンピースは、本文書に含まれる情報の即時性、正確性、完全性を保証するものではない。



国際環境NGO グリーンピース・ジャパン
〒105-0004 東京都港区新橋 3-3-13 Tsao Hibiya 12F　www.greenpeace.org/japan